

米足りぬ！地域食堂継続ピンチ

増える需要 在庫6週分

札幌豊平教会 提供呼び掛け



多くの人が列をつくる「とよひら食堂」。利用者は年々増えているといふ（稲生さん提供）

札幌市豊平区の日本キリスト教会札幌豊平教会（豊平6の3）が、開設する地域食堂で使う米の提供を呼び掛けている。同教会は路上生活者らを対象に無料で食事を提供しているが、コロナ禍などの影響で需要は増えている半面、不作や物価高騰で米が不足し、活動継続が難しい状況になっているという。

同教会は2017年に地域食堂「とよひら食堂」を開設。当初は週30食程度を提供していたが、コロナ禍で弁当の手渡しに形式を変えた。現在は市

内の他の教会やボランティアの協力も得ながら、毎週金曜日に約300食を生活困窮者らに配っている。

米は住民らからの提供でまかなっているが、弁当を求める人は増える一方で寄贈が減っている。10日現在の米の在庫は約6週間分（約180キロ）で、提供がなければ8月下旬ごろに在庫が尽きるという。

牧師の稲生義裕さん（73）は「この食事で命を支えている人もいる。少しでもご協力いただきたい」と呼び掛ける。米の提供やボランティアに関する問い合わせは稲生さん、電話090・88863・7316へ。

（山中龍之助）